



平成26年 2 月期 第 3 四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成26年 1 月14日

上 場 会 社 名 株式会社サマンサタバサジャパンリミテッド 上場取引所 東
 コー ド 番 号 7829 URL http://www.samantha.co.jp
 代 表 者 （役職名）代表取締役社長 （氏名）寺田 和正
 問合せ先責任者 （役職名）常務取締役 （氏名）菅原 隆司 (TEL) 03 (5412) 8193
 四半期報告書提出予定日 平成26年 1 月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

（百万円未満切捨て）

1. 平成26年 2 月期第 3 四半期の連結業績（平成25年 3 月 1 日～平成25年11月30日）

（1）連結経営成績（累計）

（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年 2 月期第 3 四半期	20,954	8.9	524	205.4	702	—	207	—
25年 2 月期第 3 四半期	19,249	△13.5	171	△62.2	62	△85.1	△819	—

（注）包括利益 26年 2 月期第 3 四半期 176百万円（ —％） 25年 2 月期第 3 四半期 △945百万円（ —％）

	1 株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1 株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年 2 月期第 3 四半期	586 69	—
25年 2 月期第 3 四半期	△2,320 81	—

（注）当社は、平成25年 6 月 1 日付で普通株式 1 株を 2 株とする株式分割を行いました。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して 1 株当たり四半期純利益を算定しております。

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26年 2 月期第 3 四半期	17,849	8,006	44.3
25年 2 月期	14,606	8,112	54.7

（参考）自己資本 26年 2 月期第 3 四半期 7,909百万円 25年 2 月期 7,989百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第 1 四半期末	第 2 四半期末	第 3 四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年 2 月期	—	800 00	—	800 00	1,600 00
26年 2 月期	—	400 00	—	—	—
26年 2 月期（予想）	—	—	—	400 00	800 00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無
 平成26年 2 月期の年間配当金については、平成25年 6 月 1 日付の普通株式 1 株を 2 株とする株式分割を考慮した金額を記載しております。

3. 平成26年 2 月期の連結業績予想（平成25年 3 月 1 日～平成26年 2 月28日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1 株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	30,000	9.2	1,850	84.4	1,900	102.1	800	—	2,266 55

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無
 平成26年 2 月期の連結業績予想における 1 株当たり当期純利益については、平成25年 6 月 1 日付の普通株式 1 株を 2 株とする株式分割を考慮した金額を記載しております。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無

(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 — 社(社名)、除外 — 社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

26年2月期3Q	352,960 株	25年2月期	352,960 株
26年2月期3Q	— 株	25年2月期	— 株
26年2月期3Q	352,960 株	25年2月期3Q	352,960 株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

(注) 当社は、平成25年6月1日付で普通株式1株を2株とする株式分割を行いました。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して発行済株式数(普通株式)を記載しております。

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表のレビュー手続が実施中です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料5ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(その他特記事項)

当社は、平成25年4月15日及び5月22日開催の取締役会決議に基づき、平成25年6月1日を効力発生日として普通株式1株を2株とする株式分割を実施いたしました。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する説明	2
(2) 連結財政状態に関する説明	5
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	6
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	6
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	6
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	6
3. 四半期連結財務諸表	7
(1) 四半期連結貸借対照表	7
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	9
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(セグメント情報等)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府及び日銀の積極的な経済・金融政策の推進により円安・株高が進行し、景況感には改善の動きが見られましたが、雇用・所得環境は厳しい状況が続くなど、実体経済は依然として先行き不透明な状況が続いております。

当社グループの主要な関連業界である百貨店を含む小売業界におきましては、景気回復の期待感を背景に個人消費の持ち直しの動きがみられるなど、全般的に堅調に推移いたしました。

このような状況のもと、当社グループは、「良い人、良い場所、良い商品、良い宣伝」の追求を事業戦略にかかげ、効果的な店舗展開と積極的なプロモーション活動及び商品戦略などを展開してまいりました。

・店舗展開について

バッグ事業においては、平成25年4月26日に大阪駅北側に開業した話題性の高い大型複合施設であるグランフロント大阪に「サマンサタバサデラックスプラス グランフロント大阪店」、大阪南部の新しいランドマークであるあべのハルカス近鉄本店に「サマンサタバサ プチチョイスプラス あべのハルカス近鉄本店」を出店するなど合計15店舗を展開いたしました。

さらに、旗艦店である「サマンサタバサDELUXE 表参道GATES店」ではリニューアルを行い、ホログラムによる立体的なビジュアルを使った最新のディスプレイを店内に設置するなど、CMと連動した店舗展開を推進いたしました。

ゴルフ事業においては、日本最大級のゴルフ売場として有名な名古屋松坂屋に「U25&No.7 サマンサタバサ 名古屋松坂屋店」を出店し、新宿の小田急百貨店に「U25&No.7 サマンサタバサ 新宿小田急ハルク店」、阪急うめだ本店に「U25&No.7 サマンサタバサ 阪急うめだ本店」を出店しました。さらに宮崎県の国際リゾート施設であるフェニックス・シーガイア・リゾート内にも「サマンサタバサ トム・ワトソンゴルフコース店」を出店し、サマンサタバサのバッグとゴルフアパレルの複合店舗という新業態を展開するなど合計4店舗を出店いたしました。

アパレル事業においては、「リッチミーニューヨーク 横浜タカシマヤ店」「スウィングル 阪急うめだ本店」「ウィルセクション 大丸京都店」「ウィルセクション 大丸梅田店」を出店いたしました。また、アウトレット事業においても、成田空港からもアクセスが便利な大型アウトレット施設である酒々井プレミアム・アウトレットに「サマンサタバサ ネクストページ酒々井店」を、土岐プレミアム・アウトレットに「サマンサタバサ ネクストページ土岐店」を出店いたしました。

その結果、サマンサタバサグループ合計で27店舗を出店いたしました。さらに、株式会社ラ・エストの子会社化に伴い、同社の56店舗が新たに当社グループに加わっております。

・プロモーション活動について

バッグ事業においては、「Samantha Thavasa × カワイイ × Art」の融合をテーマとして、若手クリエイターが描き出す12か月の季節や行事に合わせた12種類のアートビジュアルに、世界で最も活躍しているファッションモデルの1人である「ミランダ・カー」が出演する「Samantha Thavasa 2013CM」の放映を行ってきました。

また、「ファッションと音楽の融合」をテーマに、板野友美さんの4thシングル「1%」と連動

したスペシャルコラボレーションCMを制作し、板野友美さんと、女優やボーカリストとして世界的にも有名な「テイラー・モムセン」が、ファッションの聖地であるニューヨークのソーホーで撮影した「Samantha Vega×板野友美 loves テイラー・モムセン in NEW YORK」のCM放映も行いました。

ジュエリー事業においては、平成25年3月より「すべての女性に華やかな輝きと幸せを」をテーマとして、サマンサミューズの蛸原友里さん、山本美月さん、土屋巴端季さん、板野友美さんが出演するサマンサタバサのジュエリーブランド「Samantha Tiara」「SAMANTHA SILVA by Samantha Tiara」のCM放映を行いました。また、平成25年11月より「Merry Christmas from Samantha Tiara」と題し、サマンサミューズの蛸原友里さん、山本美月さん、土屋巴端季さん、白石麻衣さんが出演する「Samantha Tiara」のCM放送を行いました。

アパレル事業においては、当社100%子会社である株式会社バーンデストジャパンリミテッドのアパレルブランド「WILLSELECTION」の初となるCM放映も行い、大人気アイドルグループAKB48の島崎遥香さん、菊地あやかさんが出演し、「女性であることを楽しむ、ファッションを楽しむ」をコンセプトに、商品やブランドの魅力を発信いたしました。また、新たに当社グループとなった株式会社ラ・エストの創立35周年を記念し、同社の主力ブランド「L'EST ROSE」と、人気女性ファッション誌「JJ」、「Ray」、「An e C a n」、「美人百花」とコラボレーションを行ったCMも放映しました。

さらに、ゴルフ事業においては、LPGA公認女子プロトーナメント「サマンサタバサ ガールズコレクション・レディーストーナメント2013」を平成25年7月19日から21日までの3日間、茨城県のイーグルポイントゴルフクラブで開催しました。当大会には、サマンサタバサ所属女子プロゴルファーである香妻琴乃プロ、堀奈津佳プロ、山村彩恵プロ、「No 7 Samantha Thavasa」ウェア契約の原江里菜プロ、サマンサタバサ契約女子プロゴルファー青木瀬令奈プロ、嶋田江莉プロら、トッププロが参加しました。また、「ファッションとゴルフの融合」をコンセプトに、サマンサミューズによるスペシャルイベントや、スペシャルライブなどを開催し、3日間の合計で約1万6千人の方にご来場いただきました。この大会は来場者数の多さもさることながら、男性ギャラリーの割合が大きい女子プロトーナメントが多い中で、約1/4が女性ギャラリーで占められていることも大きな特徴の一つであり、当社のゴルフ事業のポテンシャルや期待の高さを感じております。

また、初のデニムブランド「Samantha Thavasa Jeans(サマンサタバサ ジーンズ)」のデビューを記念し、アジア NO. 1 の スーパーガールズグループ「少女時代 (Girls' Generation)」とプロモーション契約を締結し、少女時代が出演する「サマンサタバサ ジーンズ スペシャル CM」の放映を行いました。

・商品戦略について

各ブランド事業において新作を販売し、多様化するファッションニーズに応える商品を積極的に展開してきました。バッグ事業においては、注目商品である「サマンサアゼル」「サマンサヴェール」「パナマアリッサ」「サマンサエフィー」「サマンサフローラ」「レディアゼル」「ルイーザ」を、ジュエリー事業においては、「フラワーレターズ」「フラワーインフィニティー」を中心に、CM・雑誌・店頭・WEBなどと連動したプロモーション戦略が奏功し、売上の拡大につなげることができました。特に、平成25年3月に当社のジュエリーブランドである「Samantha Tiara」については、消費者ニーズに対応した高い商品力が評価され、ファッション業界に貢献した企業・団体・個人に贈ら

れる「第31回（2012年度）百貨店バイヤーズ賞」（織研新聞社主催）を受賞いたしました。さらに、平成25年9月27日におきましては「13年春夏百貨店バイヤーズ賞」（織研新聞社主催）を受賞いたしました。

さらに、商品の魅力をより高めるコラボレーションも継続して行い、当第3四半期連結累計期間においては、雑誌とのコラボレーションによるバッグや、人気モデル・スタイリストがデザインしたシューズを発売いたしました。また、初のデニムブランド「Samantha Thavasa Jeans（サマンサタバサジーンズ）」を立ち上げ、平成25年9月より展開いたしております。

総合オンラインショッピングサイトAmazon.co.jpのKindleストアにおいて、サマンサタバサ人気シリーズである「サマンサマリッサ」、「サマンサフローラ」の電子書籍リーダーKindleの専用カバーを販売いたしました。

また、平成25年6月より無料で通話やメールが楽しめるコミュニケーションアプリであるLINEでも公式アカウントの提供を開始しました。さらに8月には数量や時間を限定した商品を配信する「LINEシークレットセール」を通じてLINEとのコラボレーションバッグも販売いたしました。ブランド情報を受け取ることでできる「友だち」の登録も約1ヵ月で40万人超を獲得することができました（平成26年1月14日現在「友だち」登録446万人超）。LINEは、ユーザー数が全世界に3億人、日本でも4,700万人を超えており、今後新たなサマンサグループの情報発信ツールとして積極的に活用していきます。

また、当社は、株式会社ラ・エストの発行済株式の全部を取得し、当社の子会社といたしました。今回、当社が株式会社ラ・エストを子会社化することで、当社の100%子会社である株式会社バーンデストジャパンリミテッドが展開しているアパレル部門の事業拡大につながり、ひいては、当社グループ企業価値の向上につなげてまいります。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は209億54百万円（前年同期比8.9%増）、売上総利益は139億40百万円（前年同期比13.4%増）、営業利益は5億24百万円（前年同期比205.4%増）、経常利益は7億2百万円（前年同期比6億39百万円増）、四半期純利益は2億7百万円（前年同期は8億19百万円の損失）となりました。

（2）連結財政状態に関する説明

（資産）

総資産は178億49百万円であり、前連結会計年度末と比較して32億43百万円増加しております。主な増加要因は、連結子会社の増加に伴う受取手形及び売掛金、商品及び製品並びにのれんが増加したことなどによるものであります。

（負債）

総負債は98億42百万円であり、前連結会計年度末と比較して33億49百万円増加しております。主な増加要因は、連結子会社の増加に伴う支払手形及び買掛金並びに短期借入金が増加したことなどによるものであります。

（純資産）

純資産は80億6百万円であり、前連結会計年度末と比較して1億5百万円減少しております。主な減少要因は、配当の支払いに伴う利益剰余金の減少などによるものであります。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成25年9月30日付の「業績予想の修正に関するお知らせ」で発表いたしました通期の業績予想に変更はありません。今後、連結業績予想数値の修正の必要が生じた場合には、適時適切に開示を行ってまいります。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,198,619	1,782,596
受取手形及び売掛金	1,852,066	2,811,569
商品及び製品	4,334,540	7,071,199
仕掛品	—	23,339
原材料及び貯蔵品	172,425	291,853
その他	726,419	752,557
貸倒引当金	△628	△1,314
流動資産合計	10,283,443	12,731,801
固定資産		
有形固定資産	1,078,601	1,126,294
無形固定資産		
のれん	34,229	932,209
その他	238,736	281,564
無形固定資産合計	272,966	1,213,773
投資その他の資産		
差入保証金	2,043,914	2,193,106
その他	927,317	584,970
投資その他の資産合計	2,971,231	2,778,076
固定資産合計	4,322,799	5,118,144
資産合計	14,606,242	17,849,946
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,365,671	2,651,087
短期借入金	600,000	1,694,390
1年内返済予定の長期借入金	1,259,000	1,740,076
未払法人税等	315,467	108,748
賞与引当金	144,000	351,881
その他	999,892	1,448,720
流動負債合計	4,684,030	7,994,904
固定負債		
長期借入金	1,709,500	1,742,764
その他	100,264	105,283
固定負債合計	1,809,764	1,848,047
負債合計	6,493,795	9,842,951

(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成25年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年11月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,132,600	2,132,600
資本剰余金	2,252,600	2,252,600
利益剰余金	3,642,182	3,566,891
株主資本合計	8,027,382	7,952,091
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	7,338	21,326
為替換算調整勘定	△44,766	△64,023
その他の包括利益累計額合計	△37,427	△42,696
少数株主持分	122,492	97,600
純資産合計	8,112,447	8,006,995
負債純資産合計	14,606,242	17,849,946

（2）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 四半期連結損益計算書
 第3四半期連結累計期間

（単位：千円）

	前第3四半期連結累計期間 （自 平成24年3月1日 至 平成24年11月30日）	当第3四半期連結累計期間 （自 平成25年3月1日 至 平成25年11月30日）
売上高	19,249,042	20,954,238
売上原価	6,950,337	7,013,366
売上総利益	12,298,704	13,940,871
販売費及び一般管理費	12,127,029	13,416,557
営業利益	171,675	524,314
営業外収益		
受取利息	4,345	637
受取配当金	7	10
為替差益	8,271	107,394
補助金収入	—	2,302
償却債権取立益	—	51,900
その他	8,736	46,420
営業外収益合計	21,361	208,664
営業外費用		
支払利息	33,931	29,148
持分法による投資損失	93,326	—
その他	2,799	1,725
営業外費用合計	130,056	30,874
経常利益	62,979	702,104
特別利益		
関係会社株式売却益	—	105,570
固定資産売却益	—	210
負ののれん発生益	—	41,232
特別利益合計	—	147,013
特別損失		
固定資産除却損	163,745	84,607
ブランド整理損	654,320	—
関係会社整理損	111,425	—
関係会社株式売却損	—	40,841
その他	9,236	26,447
特別損失合計	938,727	151,896
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失（△）	△875,748	697,221
法人税、住民税及び事業税	68,024	184,049
法人税等調整額	△23,941	345,936
法人税等合計	44,083	529,985
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失（△）	△919,831	167,235
少数株主損失（△）	△100,678	△39,841
四半期純利益又は四半期純損失（△）	△819,152	207,076

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成24年3月1日 至 平成24年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成25年3月1日 至 平成25年11月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△919,831	167,235
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△3,828	13,988
為替換算調整勘定	△21,622	△4,307
その他の包括利益合計	△25,450	9,680
四半期包括利益	△945,282	176,915
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△846,613	201,808
少数株主に係る四半期包括利益	△98,668	△24,892

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

当社グループは、「ファッションブランドビジネス」という単一のセグメントであるため、記載を省略しております。